資料４

次期まちづくり計画の将来像（理念）の検討に向けたこれまでの意見の整理

１．これまでの意見の整理について

次期まちづくり計画の将来像（理念）の検討に向け、これまで実施した住民アンケート、中高生アンケート、職員ヒアリング、まちづくり委員からの意見をもとに、「10 年後、どのような町になっていてほしいか」「これからの町づくりで何を大切にしていきたいか」という視点から、共通する考え方や方向性を整理しました。

２．これまでの意見からみえる「これからの町づくりで大切にしたいこと」

① 安心して暮らし続けられること

住民、中高生、職員、委員のいずれからも、年齢や状況にかかわらず、安心して暮らし続けられることを大切にする意見がみられました。

- ・医療、福祉、買い物、交通など、日常生活に必要な環境が維持されている
- ・子どもから高齢者まで、安心して暮らせる
- ・「ここで暮らしてよかった」「これからも暮らし続けたい」と感じられる
- ・人口が減少しても、必要な暮らしの機能が維持されている

住民アンケートでは、「医療福祉施設や制度が充実し、安心して暮らせる町」が、今後重要と思う施策として最も多く選ばれています。

② 人とのつながりや支え合いを大切にすること

地域の人の温かさ、人と人とのつながり、支え合いは、世代を問わず大切にしたいものとしてみられました。

- ・人と人とのつながりや、地域の温かさが残っている
- ・誰もが自分の居場所を持ち、人と関わりながら暮らせる
- ・多様な人や価値観を認め合い、それぞれが自分らしく暮らせる
- ・町民、企業、行政などがそれぞれの役割を持ち、ともに地域をつくる

中高生からも、「地域の人の優しさ」「地域の人同士のつながり」「町民同士の結束力」などを残したいという意見がみられました。

③ 子どもや若者を育て、次の世代へつなぐこと

子どもや若者が地域で育ち、町への愛着を持ち、将来も町とつながり続けられることを大切にする意見がみられました。

- 子どもや若者が楽しく、のびのびと育つことができる
- 学びを通じて地域を知り、地域への愛着や誇りを育てる
- 進学や就職で町外へ出ても、帰りたいときに帰ってくることができる
- 若者や UI ターン者など、多様な人が地域で活躍できる
- 次の世代へ町の暮らしや営みをつないでいく

住民からも、若い世代が住み続けたり、町外へ出た後に帰ってこられる環境を求める意見がみられました。

④ 豊かな自然や地域の良さを守り、活かすこと

高津川、きれいな水、山や森林、農地、有機農業などは、吉賀町の大切なものとして幅広く挙げられています。

- 高津川や森林、里山などの豊かな自然を守る
- 自然とともに暮らす豊かさを次の世代へつなぐ
- 農林業や有機農業など、地域にある資源を暮らしや仕事に活かす
- 自然や文化など、吉賀町ならではの魅力を町外にも伝える
- 地域資源を活かして、新たな魅力や地域の活力を生み出す

特に中高生では、高津川や水、山、森、田んぼ、生き物などの自然を「10 年後も残っていてほしい・守りたいもの」とする意見が多くみられました。

⑤ 町の内と外がつながり、人やものがめぐること

定住人口だけではなく、町外へ出た人、移住者、訪れる人など、さまざまな人が町と関わり、町の内と外がつながることを大切にする意見がみられました。

- 町外へ出た人が、帰ったり、地域と関わり続けたりすることができる
- 移住、滞在、観光、仕事、交流など、多様な形で町と関わることができる
- 外から人や知恵を取り入れ、新しい動きにつなげる
- 地域にあるものや価値を町外へ届ける
- 人、もの、お金、知恵などが町の内外を行き来し、地域の活力につながる

委員意見では、定住だけにとらわれない多様な関わりや、人・もの・お金・知恵などが町内外を循環するという考えがみられました。

⑥ 人口減少を受け止めながら、持続できる地域をつくること

人口減少を「人口を増やす」という視点だけで捉えるのではなく、人口が減少しても暮らしや地域の営みを続けていくという考えが、住民、職員、委員の意見にみられました。

- ・人口や経済規模の大きさだけを町の豊かさの基準としない
- ・人口が減少しても、必要な暮らしや地域の営みが続いている
- ・限られた人材、財源、施設などを有効に活かす
- ・何を残し、何を変え、何に力を入れるのかを考える
- ・小さくても、暮らしの豊かさや楽しさを感じられる地域をつくる

職員ヒアリングでも、人口規模だけを追うのではなく、人口が減少しても、住民が暮らしの豊かさや楽しさを感じ、「ここに住みたい」「戻ってきたい」と思える地域を目指す意見がみられました。

⑦ 多様性を認め、新しいことに挑戦し、変化していくこと

今あるものを守り、受け継ぐだけでなく、新しい人や考え方を受け入れ、必要に応じて仕組みを変えながら、新しい取組を生み出していくという考えもみられました。

- ・一人ひとりの違いや多様な価値観を認め合う
- ・一人ひとりの「やってみたい」を大切にする
- ・これまでの仕組みにとらわれず、必要な見直しや発想の転換を行う
- ・新しい仕事や活動、挑戦が生まれ、育つ環境をつくる
- ・行政だけでなく、多様な主体が町づくりに関わる

委員意見では、多様性や人権などの価値観に加え、「試す・変える・見直す」、創業・起業など、変化や挑戦を前向きに捉える意見がみられました。

３．これまでの意見からみられる主なキーワード

住民、中高生、職員、委員から出された意見を重ねると、これからの町づくりで大切にしたい考え方として、次のようなキーワードがみられます。

安心して暮らす　／　人とのつながり・支え合い　／　子ども・若者・次世代　／　自然・水・森林　／　地域資源　／　住み続ける・戻る　／　町内外とのつながり　／　循環・めぐり　／　人口減少・小ささ　／　持続　／　多様性　／　挑戦・変化

これらの意見からは、今ある自然や人とのつながり、安心できる暮らしなどを大切にし、次の世代へつないでいくこととともに、人口減少を見据えながら、町の内外とのつながりや多様な人の力を活かし、新しいことにも挑戦しながら、暮らしや地域を持続させていくことが、これからの町づくりを考えるうえで大切な視点としてみえてきます。